

# Japan Geoscience Union Meeting 2011

(May 22-27 2011 at Makuhari, Chiba, Japan)

©2011. Japan Geoscience Union. All Rights Reserved.



ACG032-10

会場:105

時間:5月27日 11:00-11:15

## 衛星搭載光学センサを用いたJAXAの地球環境監視データセット JAXA's global environmental monitoring dataset derived from space-borne optical sensors

堀 雅裕<sup>1\*</sup>, 村上 浩<sup>1</sup>, 中右 浩二<sup>1</sup>, 小野 朗子<sup>2</sup>  
Masahiro Hori<sup>1\*</sup>, Hiroshi Murakami<sup>1</sup>, Koji Nakau<sup>1</sup>, Akiko Ono<sup>2</sup>

<sup>1</sup> 宇宙航空研究開発機構, <sup>2</sup> 千葉大学  
<sup>1</sup>Japan Aerospace Exploration Agency, <sup>2</sup>Chiba University

宇宙航空研究開発機構(以下、JAXA)では、米国航空宇宙局(NASA)の極軌道地球環境観測衛星TERRAおよびAQUAに搭載されている中分解能分光放射計(MODIS)が観測した日本周辺域のデータを、2004年6月28日以降、鳩山にあるJAXA地球観測センター(EOC)にて受信し準リアルタイムでの解析処理を行い、海色や海面上エアロゾル量など、主に海域をターゲットとした物理量の公開を行ってきている([http://kuroshio.eorc.jaxa.jp/ADEOS/mod\\_nrt](http://kuroshio.eorc.jaxa.jp/ADEOS/mod_nrt))。2008年12月からは、日本周辺域の日射量(光合成有効放射量)・積雪分布の解析を半月単位で実施し、ブラウザ画像およびバイナリデータの公開を実施している(JASMES <http://kuroshio.eorc.jaxa.jp/JASMES/index.html>)。2009年度には、処理領域を全球に拡張したものを追加し、物理量についても日射量、積雪に加え水ストレス、林野火災を新たに追加し半月単位での処理・データ公開を開始した。また、2010年度には、処理領域としてタイ周辺領域を、また物理量として植生指数、クロロフィル-a濃度、エアロゾル光学的厚さを新たに追加する計画である。本講演では、衛星搭載光学センサのデータを用いたこれらのデータセットの概要についてご紹介する。

キーワード: 衛星観測, 光学センサ, 日射量, 積雪, 水ストレス, 火災

Keywords: satellite observation, optical sensor, photosynthetically available radiation, snow cover, water stress, wildfire